特集「建設分野の魅力」第28回

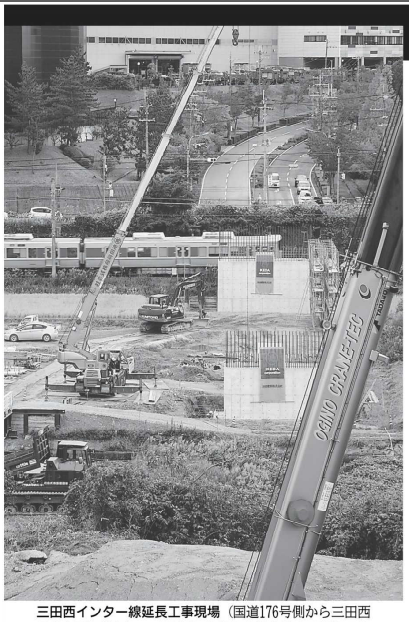
未来につなぐ
つくるひと・まもるひと

新時代に不可欠な道築く

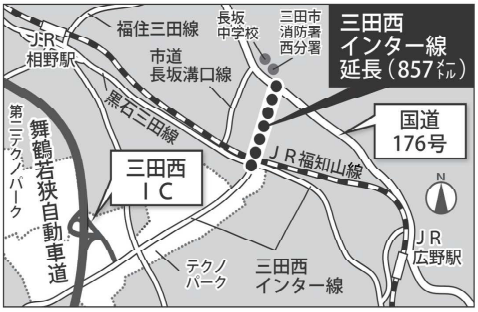
三田市の郊外、国道176号から舞鶴若狭自動車道三田西インターへのアクセス性向上は長年の懸案だった。事業着手から17年。「三田西インター線」（溝口―長坂）は整備が本格化し、田園風景は変貌を遂げつつある。工事に関わる県職員や建設会社社員に仕事にかける思いを聞いた。

取材協力＝兵庫県建設業育成魅力アップ協議会

三田西インター線（溝口―長坂）



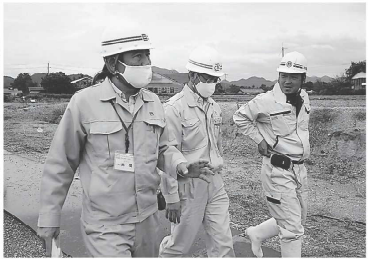
三田西インター線延長工事現場（国道176号側から三田西ＩＣ方面を臨む）。ＪＲ福知山線と立体交差する橋りょうの建設が行われている＝三田市溝口



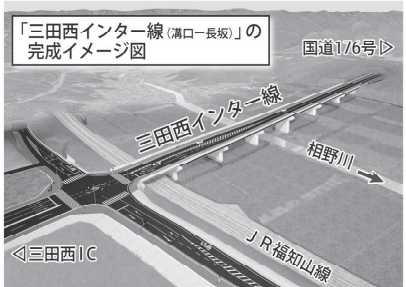
高速道へのアクセス向上

三田西インター線（溝口―長坂）　三田市長坂の国道176号―舞鶴若狭自動車道三田西インター間を直結する延長857㍍（土工区間637㍍、橋りょう区間220㍍）の２車線道路の県道。計画交通量は１日約１万台。現在、国道から三田西インターへ行くためには大きく迂回する必要があり、一部は１車線のため大型車や歩行者の通行に不便な状態が続いている。また、並行して走る市道長坂溝口線の交通量も増加している。

この区間をＪＲ福知山線と立体交差するバイパスで直結することで、高速道路へのアクセス性を飛躍的に向上させ、安全で円滑な交通を確保する。一帯では工業団地・第二テクノパークの企業立地も進み、企業の物流機能の強化を図るためにもバイパス整備が急がれる。事業費30億円。2024年３月の供用開始を目指している。



工事現場を巡視する（左から）高橋さん、木俣さん、福田さん



建設業の魅力発見
動画コンテスト作品募集中
（最優秀作品 賞金５万円）
詳細はこちら

池田建設株式会社 工事部
福田 真司氏

三田西インター線工事ではＩＣＴ（情報通信技術）活用工事を導入した。土工区間ののり面を整形するとき、バックホー（油圧ショベル）を容易かつ正確に操作でき、仕事の効率化が図られた。バイパスがＪＲ福知山線と立体交差するため、線路のすぐそばにＨ鋼を打ち込む「近接工事」も手掛け、橋脚が少しずつ姿を現している。

現場代理人として施工管理や発注者との協議にあたっている。まずは、安全の徹底。朝礼で何度も「安全第一」を呼び掛けるようにしている。道路で分断される耕作地へ農業機械を乗り入れやすくするにはどうしたらいいかーなど、発注者の県に相談し、技術的なアドバイスをもらいながら工事を進めるようにしている。

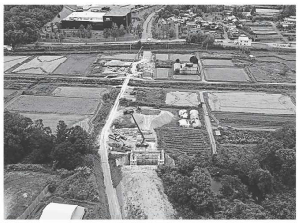
ＩＣＴ活用工事を導入
快適・安全な道「つなぐ」

「つなぐ」仕事がしたい。まず、よい工事を手掛け、地域住民と発注者につなぎたい。快適・安全に運転できる道を造り、利用者につなぎたい。そして「３Ｋ（きつい、きたない、危険）」ともいわれる業界だが、「つくる」仕事の魅力と汗をかいてこそ分かる達成感を若者につなぎたい。そして、思いやりを持って仕事をすることの大切さを伝えたい。

この夏は熱中症対策として空調服を着用し、作業員休憩所にはエアコンを設置し、スポーツドリンクを常備するなど職場の環境改善を図った。

休みの日は小学５年の息子とキャッチボールを楽しんでいる。これもワークライフバランスの一つかな。

県内では東播磨道の建設などを手掛けてきた。三田西インター線工事でも高い評価を得て、次につなげたい。県内陸部の地域間交流の促進や産業活性化、沿線環境の改善にもつながる大規模工事にやりがいを感じている。



㊤㊦通学路になっている「市道長坂溝口線」。歩車道分離がない上に通勤車両が多く危険な状態
㊤㊦建設用地はもちろん、工事用道路のための借地も必要なため、地元住民への説明を丁寧に行いながら建設への理解を求めた
㊦大型車がう回流入する「福住三田線」。幅員が狭いため車両のすれ違いが困難になり滞留することが多い

兵庫県宝塚土木事務所
三田業務所課長補佐
高橋　徹氏

三田西インター線工事では主任監督員として、現場監督業務に携わっている。現場のマネジメントのほか、積算、地元調整にあたってきた。

事業着手から長い年月を要したが、いま、工事が本格化している。橋りょう工事が進む光景に思いは深い。建設用地の買収を終えたが、それとは別に工事用道路を敷設するため借地も必要だった。高速道路へのアクセス性を高め、地域間の交流を促進させる幹線道路に対する地元の方々の理解が鍵となった。

県に入庁して30年になる。これまで9カ所の土木事務所で道路、河川改修などにあたってきた。東日本大震災のときは、岩手県宮古土木センター河川港湾課に3カ月間、災害派遣された。加古川土木事務所では東播磨道整備工事にかかわった。これまでの経験を糧に、2024年3月の供用開始に向け、三田西インター線の建設にまい進したい。

土木の職場はチームワークが重要だ。多くの職員の知識・経験を基に問題を解決していくため、積極的にコミュニケーションを図り、風通しの良い職場環境をつくるよう努めている。

休みの日の楽しみは、雄の愛犬2匹とともに外出し現実逃避すること。少し遠出することもある。ワークライフバランスの取り組みは大切だと感じている。

三田西インター線の工事もようやくここまで来た。新たな道路ネットワークを形成し、暮らしや物流の利便性を高めたり、消防・救急救命活動などの強化を図ることはアフターコロナの時代にぜひとも必要だ。これまで地元調整にあたってきた職員の思いも引き継いで、事業完成までなんとしてもやり遂げたい。

現場監督業務を担当
地元の理解を第一に

兵庫県まちづくり技術センター
丹波事務所技術専門員
木俣 康祐氏

兵庫県まちづくり技術センターは県事業や市町事業への支援を行うのが主な業務で、大規模・特殊公共工事などの設計・積算・総合評価・工事監理業務を受託し、地元調整などに尽力する発注者のサポート役を務めている。

三田西インター線では現場技術員として、関係法令・規則を順守し、安全第一で順調に工事が進むよう現場での工事監理にあたっている。国道と高速道路のインターチェンジを直結するバイパスであり、地域の交流を支える重要な幹線道路となる。少しでも高品質な工事を実現したい。

長年にわたって県土木職員として蓄積してきた経験を生かし、退職後も竹田川（丹波市）の河川工事に現場技術員としてかかわったほか、県内各地の道路工事や橋りょう補修工事、砂防工事の積算業務支援にも携わった。これまでの経験を生かし、現場の役に立ちたいとの思いでやっている。

今年の夏も暑い日が続いた。工事現場では一層の熱中症対策が求められ、空調服を導入し効果を上げるなど、職場の環境改善にも取り組んできた。十分な休息を取り、体調を整えるためにも週2回の定時退庁日（水・金曜日）を設けたり、夏場に定時退庁週間を2回設定したりした。

休みのときは米や野菜を栽培するのが楽しみのひとつ。コロナで大変な時期、ワークライフバランスの取り組みもよりいっそう大切となる。

三田西インター線は、延長220㍍の橋りょうが建設され、ＪＲ福知山線と立体交差するなど、大掛かりな道路改築となる。県内でも有数の大規模工事にかかわることができ、「良いもの」を造りたいとの思いで携わっている。

技術員として工事監理
「良いもの」を造る一心